

令和 7 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

令和 7 年 10 月 16 日

学 長 殿

所属部局・職名

(所属・学年) 共生システム理工学類・教授

申 請 者 名

(学会発表助成の場合は参加者名)

筒井 雄二

助成の区分 (該当するものに○)	学会発表助成
研究活動名	世界精神医学会 2025 (World Congress of Psychiatry:WCP2025)
成 果 の 概 要	<p>2025 年 10 月 5 日から 8 日にかけて、チェコ共和国プラハで開催された**世界精神医学会議 2025 (WCP2025)** に出席し、研究発表を行った。発表タイトルは“<i>MENTAL HEALTH OF RESIDENTS FORCED INTO LONG-TERM EVACUATION 12 YEARS AFTER THE NUCLEAR POWER PLANT ACCIDENT</i>”であった。本研究は、原発事故により長期避難を余儀なくされてきた福島県浪江町の住民を対象に、2023 年に実施した調査に基づくものであり、事故から 12 年を経た避難住民の精神的健康の現状と、帰還に伴って新たに生じている心理的問題の実態について報告した。</p> <p>発表は大会 2 日目に開催されたオーラルセッション「Migration, Crisis, and Mental Health: Public health challenges in displaced and impacted communities」において口頭発表を行うとともに、大会期間中を通じて電子ポスターの掲示も行った。同セッションは、そのタイトルの通り、人々の精神的健康を移住・災害・危機といった国際的課題の文脈で精神医学的に論じるものであり、実際には洪水災害を調査したブラジルの研究者や、難民のメンタルヘルスを扱ったポルトガルの研究者らとの共同セッションであった。</p> <p>本学会での発表は、日本国内の学会では得がたいグローバルな視点から災害被災者の心理的問題について議論する貴重な機会となった。また、海外の研究者に対して、福島原発事故の影響がいまだに地域住民の精神的健康に及んでいるという事実を認識してもらおう契機にもなったと考えている。</p>